



STOP! 介護崩壊 介護ウェブ2009 推進ニュース

— 介護ウェブの “Big Wave” をおこそう! —

「介護ウェブ2009」の基本方針を具体化し取り組みを開始しよう

「介護ウェブ2009」の基本方針 — 次期制度見直し準備の年。「介護再生プラン」を地域で練り上げ、介護保険・介護保障制度の抜本的改善を必ず！実現させよう—

昨年5月から始まった「介護ウェブ」は、1年間に渡り全国で取り組まれてきました。全職員による学習で制度が抱える問題点を深め、自らの問題として介護改善のために、日常業務が忙しい中でも時間を見つけ、仕事が終わった後に宣伝・署名行動を行うなど、創意工夫の取り組みで多くの市民に訴え、全国各地で「介護ウェブの”Big Wave”」が起きました。署名も8月末までに20万筆の目標を達成し、最終的に2つの署名は約50万筆となりました。

これらの取り組みにより、09年介護報酬改定では3%のプラス改定、さらに、新要介護認定制度の実施凍結を求めるとりくみでは、認定基準が一部修正となり、要介護度が変わった場合でも、これまでの要介護度が継続できる経過措置が実施されることになりました。

職員一人ひとりの「介護改善」の熱い思い・情熱が50万人という方々から指示を受けたことによる成果であり、確信を持って、今後の取り組み「介護ウェブ2009」を推進していきましょう。

■ 当面のとりくみについて提起します（介護ウェブ2009基本方針より）

基本方針にもとづき、次年度予算編成に向けた概算要求の時期（8月）、総選挙に向けたとりくみを「介護ウェブ2009」の第1の節目としてとりくみます。

特に国・自治体に対しては、新認定制度の経過措置の適切な運用を求めると合わせ、新認定制度そのものの矛盾や問題点を地域に知らせ、実施中止を求める声を広げていくこと、介護報酬の再引き上げとともに、利用に支障が生じないように支給限度額の引き上げを実現させていくことが重点となります。

① 介護問題の学習

○事業所、共同組織、地域の中で、新認定制度、介護報酬をふくめ介護保険制度の問題点の学習活動をすすめます。

② 署名・宣伝

○新しい署名（学習用チラシ付き署名、署名用紙単独でも作成）は8月末までに目標の半分（25万筆）を集約します。5月からとりくみを開始します。

○中央社保協から「介護保険制度をたてなおせ、“私の一言”」運動も提起されています。民医連の署名活動と合わせてとりくみます。

③ 調査

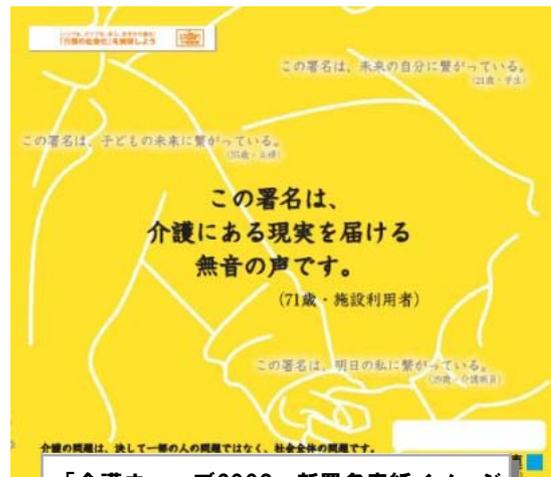
○4月から3カ月間、2009年介護報酬改定（利用料負担や支給限度額超過）、新要介護認定制度に対する影響調査を緊急に実施します。（すでに200を超える事例が寄せられています）

○調査の結果は自治体交渉などにも活かします。

④ 自治体へのはたらきかけ

○利用者、事業所の実態に基づき、具体的な要求・政策をとりまとめ、自治体との懇談・交渉などにとりくみます。新認定制度の問題、介護報酬改定による支給限度額超過の問題などが当面の自治体交渉の焦点となります。

○地域社保協、地方議員とも連携してすすみましょう。



「介護ウェブ2009」新署名表紙イメージ

新認定制度の内容と問題点と「たたかいと対応」 主治医意見書の書き方学習講習会を開催！（近畿地協）



近畿地協の主催で4月26日(日)に、山田智全日本民医連介護・福祉部長(福岡民医連：親仁会みさき病院院長)を講師に『主治医意見書の書き方学習講習会』が開催され、医師および介護保険や認定・主治医意見書に携る職員106名が参加(うち医師は16名参加)しました(大阪民医連からは59名、うち医師9名参加)。4月から新認定制度がスタートし、利用者の方々が軽度に認定されかねないシステムや認定調査基準の変更が強行(国は国民の批判のもとに一部手直しは行いましたが中身は根本的な変更無し)されています。民医連の事例にもとづく交渉や記者会見、小池国会議員の内部文書による追及でマスコミも大きく取り上げ、更新申請者への異例の「経過措置」が行われることになりました。しかし、新規分は新システムによること、検証期間が終われば「経過措置」がなくなることなど、ひきつづく「たたかいと対応」が重要と訴えられました。

山田介護・福祉部長は、対応面では今回の変更のなかで『主治医意見書』への「介護の手間」の記入が重要になるとし、書き方のポイント・具体例やみさき病院で実際に活用しているチェックシート・各職種の連携により介護度がアップした事例も示しながら、多職種連携による作成の取り組みの必要性を訴えられました。「大変実践的な学習会だと思います。持ち帰って多職種参加型的主治医意見書の取り組みを利用者を守るためにもやっていきたいと思います」「多職種連携で書き上げる意見書が患者のQOLの向上につながるとおもいました」など積極的な感想が寄せられました。(大阪民医連週報 2009.04.27 No.62号より)

道南介護ウェーブ実行委員会が、外来待合でアピール(北海道)

道南勤医協介護ウェーブ実行委員会(通所リハ・回復期リハ病棟・一般病棟・ライフあかがわに所属する4人のケアワーカーで構成しています)は、3月6日昼休みに稜北病院外来待合室で、患者さんへのアピールを行いました。ホントは、病院前で市民にアピールする予定でしたが、みぞれ混じりの悪天候で急遽予定を変更して屋内での行動になりました。みんなで寄せ書きをした横断幕を持ち、この日のために作ったアピールを読み上げて、「介護の楽しさややりがい、つらさを共有し活動を広げていきます。応援よろしくお願いします」と訴えると、患者さんから拍手が起きました。この行動には、リハビリや事務からの応援も含めて20人が参加しました。実行委員会独自の行動は、昨年11月11日「介護の日」に続くもので、次回は、4月下旬に五稜郭公園などで市民にアピールするとりくみをしようと計画しています。(北海道民医連 NEWS 09.03.12より)



【事務局短信】 STOMPI 介護情報 「要介護認定制度2009ハンドブック」間もなく完成！



従来の「主治医意見書の書き方マニュアル」を全面改定した「要介護認定制度2009ハンドブック～多職種連携で作上げる主治医意見書」を5月下旬に発行します。(株)保健医療研究所から販売します。注文方法等については、別途お知らせいたしますので、もうしばらくお待ちください。

ハンドブックは、新要介護認定制度の見直しの全体像や制度の仕組み、問題点等を解説。その上で、新制度に対するたたかいと対応の取り組みとして、多職種連携で作上げる主治医意見書の重要性を示し、新制度に対応した主治医意見書の記載のポイントや、認知症への理解と対応として、BPSDやアルツハイマーの解説、その他、多数の参考資料を掲載しています。

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp